

62 牛肺虫症

担当	検査チャート
家畜保健衛生所	<pre> graph TD     A["(1) 疫学調査"] --- B["(2) 臨床検査"]     A --- C["(3) 剖検"]     B --- C     C -- "(死亡牛)" --&gt; C     C --- D["(4) 血液検査"]     D --- E["(5) 糞便検査"]     E -- "(+)" --&gt; F["(+)", 判定結果]     E -- "(-)" --&gt; G["(-)", 判定結果]     C -.-&gt; H["(6) 病理組織検査"]     H -- "(+)" --&gt; I["(+)", 判定結果]     H -- "(-)" --&gt; J["(-)", 判定結果]     </pre>
病性鑑定施設	<p>(+)</p> <p>(-)</p> <p>(+)</p> <p>(-)</p>
判定・結果	<p>(+)</p> <p>(-)</p> <p>(+)</p> <p>(-)</p>
最終判定	<p>疫学調査、臨床検査の結果を基に、糞便検査と必要に応じて剖検の結果により本病とする。</p>
その他	

→類似疾病検査

- ① 15 牛伝染性鼻気管炎
- ② 31 牛アデノウイルス病
- ③ 33 牛パラインフルエンザ
- ④ 30 牛RSウイルス病
- ⑤ 18 イバラキ病
- ⑥ 20 牛流行熱
- ⑦ 45 牛マイコプラズマ肺炎
- ⑧ 5 結核病

○ 病原体:牛肺虫 *Dictyocaulus viviparus*

(1) 疫学調査

- ① 汚染地から牛を導入した。
- ② 汚染牧野では毎年発生が繰り返される。
- ③ 導入または放牧後3～4ヵ月に多発
- ④ 子牛(4～10ヵ月齢)に好発

(2) 臨床検査

- ① 異物を喀出するような発咳
- ② 呼吸数の増加(腹式呼吸)
- ③ 肺のラッセル音
- ④ 発熱
- ⑤ 流涎
- ⑥ 鼻汁流出
- ⑦ 一般症状の悪化
- ⑧ 下痢

(3) 剖 検

- ① 透明度のある帯褐淡紅色、硬度を増し、弾力に乏しい肺炎巣が全葉に散在
- ② 気管支、細気管支腔内に牛肺虫が泡沫液と混在
- ③ 肺の付属リンパ節の腫大

(4) 血液検査

血液塗抹ギムザ染色標本の鏡検(好酸球数の増加)

(5) 糞便検査

遠心管内遊出法(牛肺虫第1期幼虫の確認)

(6) 病理組織検査

- ① 気管支、細気管支および肺胞内に虫卵や幼虫を検出
- ② 好酸球浸潤を伴う細気管支・気管支炎あるいは周囲炎
- ③ 好酸球、異物巨細胞形成を伴う肺胞炎